

つなぎひろげる生涯学習の輪 ～第5回和水町生涯学習推進大会～

2月27日(日)三加和公民館で、第5回生涯学習推進大会が開催されました。

「親子で綴る人権標語(優秀賞)」や「税の作文(国税庁長官賞)」などの各種入賞作文の発表、各種団体の年間活動状況の発表など和水町の元気の源が見えるような大会になりました。

また、ふなやま講座特別講演として、曹洞宗勝光寺住職で南こうせつさんの実兄の南慧昭さんをお招きし、「心の健康」と題して歌を交えながらの楽しいお話をいただきました。



発表の様子

| 活動事例発表 | | 各種入賞作文発表 | | 親子で綴る人権標語 優秀賞 | |
|--|--|--|--|---|--|
| <p>◆ジュニアガイドの活動をおして 菊水中央小学校6年生 嶋添 健くん／高峰将真くん</p> <p>◆なごみの里プロジェクト なごみの里 北原 望さん</p> <p>◆絵本「トントンカラリのトンカラリン」の製作に携わって 和水町商工会青年部長 櫻井謙臣さん</p> <p>◆子どもたちの笑顔をみたいから 図書ボランティアから保護者の輪が広がる 学校支援ボランティア菊水中央ママリリス代表 後藤久美子さん</p> <p>◆なごみひよっとこ笑福隊の活動について なごみひよっとこ笑福隊 前淵康彦さん</p> | | <p>◆平成22年度熊本県児童文集ゆめ 優秀賞 『法立寺に行って』 緑小学校4年生 松尾実咲さん</p> <p>◆平成22年度「熊本の心」に関する作文 入選 『おじいちゃんの四十九日』 菊水西小学校4年生 小島大知くん</p> <p>◆平成22年度中学生の税についての作文 国税庁長官賞 『社会に優しい税』 三加和中学校1年生 古閑原あずささん</p> | | <p>3年生 森 もり 彩夏さん親子 いじめや差別 やめよう 止めよう 立ち向かおう</p> <p>2年生 嶋田美穂さん親子 「大丈夫？」そのひとことの 気配りを！</p> <p>1年生 福本恵理香さん親子 みないふり 自分の心が見ているよ</p> <p>3年生 小山由佳さん親子 菊水中学校 ありがとう みんなの心に 花が咲く</p> <p>2年生 末永優香さん親子 思いやり 恥ずかしがらず まず行動！</p> <p>1年生 古川直人くん親子 三加和中学校 考えて 一言一言 大切に</p> | |

楽しく学び育む ～第10回玉名地域みどりの少年団交流集会～

2月19日(土)菊水中央小学校体育館で第10回玉名地域みどりの少年団交流集会が開催されました。

この交流集会は、玉名地域のみどりの少年団の交流と親睦を目的として、平成13年から行われているもので、今年は和水町から小学6年生73名が参加して、「木工体験」を行いました。

木工体験ではイスと本立ての2種類から、希望した作品をなれない手つきで友達やスタッフと協力しながら一生懸命作成していました。

最近ではこういった体験をする機会が減ってきており、子どもたちにとって貴重な経験となったのではないのでしょうか。



木工体験中の子どもたち

受け継がれる和水の文化 ～ふれあい作文コンクール最優秀賞受賞～

3月12日(土)NTT西日本熊本支店桜町ビルで、第5回“光”ものがたり大賞～「わたしのくまもと」ふれあい作文コンクール～の表彰が行われました。

今年度は、県内の小中学校から829作品の応募があり、小学校高学年の部で、村上大悟くん(菊水中央小学校6年生)が見事に最優秀賞を受賞しました。村上くんは「みんなで取り組んだ内容で賞が取れてうれしい」と話してくれました。



なごみさるくガイド

菊水中央小 六年 村上 大悟

ぼくたちは、総合的な学習の時間で、「ジュニアガイドになろう」に取り組んできた。ぼくが住んでいる和木町には、史跡や古墳がたくさんある。それを自分たちで調べ、地域の方や観光に来られた方に知らせるということだ。ぼくは、この町に江田船山古墳という有名な古墳があることは知っていた。しかし、本格的に調べ学習をしていくと初めて知ったことやおどろいたことがたくさんあった。

特にくわしく調べていった船山古墳は、前方後円墳で、出土品の中では日本最古の七十五文字で書かれた太刀が有名である。大和朝廷の中でえらい位にあったムリテという方が眠っていることがわかり、わくわくした。早く調べたことをみんなにガイドしたくなった。

九月に入り、本格的に準備を始めた。ガイドをするときに、ただ一方的に話すばかりでは聞いている人は退屈してしまうかもしれないと思い、ぼくたちのグループは二つのことを工夫した。一つ目は、より伝えたいことをクイズにして、聞いている人も楽しみながらガイドをすること。もう一つは、実物大の太刀を製作して実際に提示することである。より伝えたいことをクイズにすることで、お客さんの印象に残ると考えたからだ。また、船山古墳がある民家村には、木工館があり、手伝ってもらいながら太刀を作ることもできたからだ。自分たちで実際に描かれていた四つの絵や七十五文字を書き完成させた。大きさや絵、文字を真似して作り、実物のように見せることでこういうものが出てきたんだとお客さんが興味を持って聞いてもらえると思った。それぞれに自分たちのグループ独自のガイドのシナリオを完成させた。本番のガイドは、11月の「山太郎祭」というお祭りがガイドデビューと決まった。練習とはくらべものにならない緊張感があった。特に、お客さんの反応を見て、上手く入れなければならぬのがアドリブだ。お客さんがあきないようにどのような言葉で返すが大切である。実際にガイドをしたら、お客さんは、「よく調べたね。それによく覚えているね。」となかなかよい反応であった。特に、太刀に興味を示され、「教科書でみたことがあったよ。」と言われ、やはり歴史的に有名な物がこんな近くにあり、それをぼくたちがガイドしていることがなんと誇らしく思えた。クイズは、四択にして分かりやすい問題にしたつもりだったが、案外間違われることが多く、もっと数値や言葉の区切りやすくすればよかったなど反省させられた。

その後、お客さんの要望に答えるためのショートバージョンの作成も行った。ガイドの工夫を教えてくださいました。町の江上さんや元アナウンサーの島喜久さんなどのおかげでできあがった「なごみさるくガイド」次の機会にもまた、この和木町のすばらしい史跡を自分の言葉で楽しみなながらガイドしたい。

健やかな成長を願って ～新1年生に黄色の帽子寄贈～

3月15日(火)町商工会青年部(櫻井謙臣部長)から新入学児童に登下校時に着用する黄色い帽子が寄贈されました。町商工会青年部が地域貢献活動の一環として毎年行っています。

今年は、櫻井部長が訪れ、教育長に手渡されました。「黄色い帽子をかぶって登下校する児童の姿を見られたら、安全運転に心がけてください。未来の和木町の担い手である子どもたちの健やかな成長を願っています。」と話してくれました。

